

令和4年度 第1回周南市文化・スポーツ活動推進協議会

周南市教育委員会学校教育課
周南市文化・スポーツ課

所管説明

- 1 周南市文化・スポーツ活動推進協議会について
- 2 周南市の児童・生徒数及び部活動数等について
- 3 秋月中学校の実践研究について
- 4 学校部活動の地域移行後の持続可能な環境づくりについて
- 5 ゴールイメージの具現化に向けたスケジュール（案）
- 6 本協議会における検討事項（案）

1 周南市文化・スポーツ活動推進協議会について

資料 1

(協議会設置のねらい)

第 1 条 周南市立中学校における部活動について、地域で行われる文化・スポーツ活動への段階的移行（以下「中学校部活動の移行」という。）に向け、**中学生をはじめ、誰もが気軽に生涯にわたり文化・スポーツ活動に親しみ、楽しむことができる環境づくりを推進するため**、周南市文化・スポーツ活動推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の役割)

第2条

- (1) 中学校部活動の移行に係る推進計画の策定に関すること。
- (2) 中学校部活動の移行に係る文化・スポーツ活動の仕組みづくりに関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、必要な事項に関すること。

（協議会の委員）

第4条 委員の任期は2年とする。

- ・ オブザーバー（各団体1名まで）
- ・ 協議会委員の欠席について
→ 意見の事前提出、または代理出席

(協議会座長について)

第5条 協議会に座長を置く。

2 座長は、周南市教育委員会学校教育課長が務める。

第6条

2 座長は、必要があると認めるときは、委員以外のものを会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

（専門部会について）

第 7 条 協議会の会議で協議された事項をさらに検討するため、専門部会を置くことができる。

2 周南市の児童・生徒数及び部活動数等について

(1) 本市の児童・生徒数、学校数等 (R4.5.1現在)

児童・生徒数	10,008人	児童 6,591人	生徒 3,417人
小・中学校数	40校	小学校 27校	中学校 13校

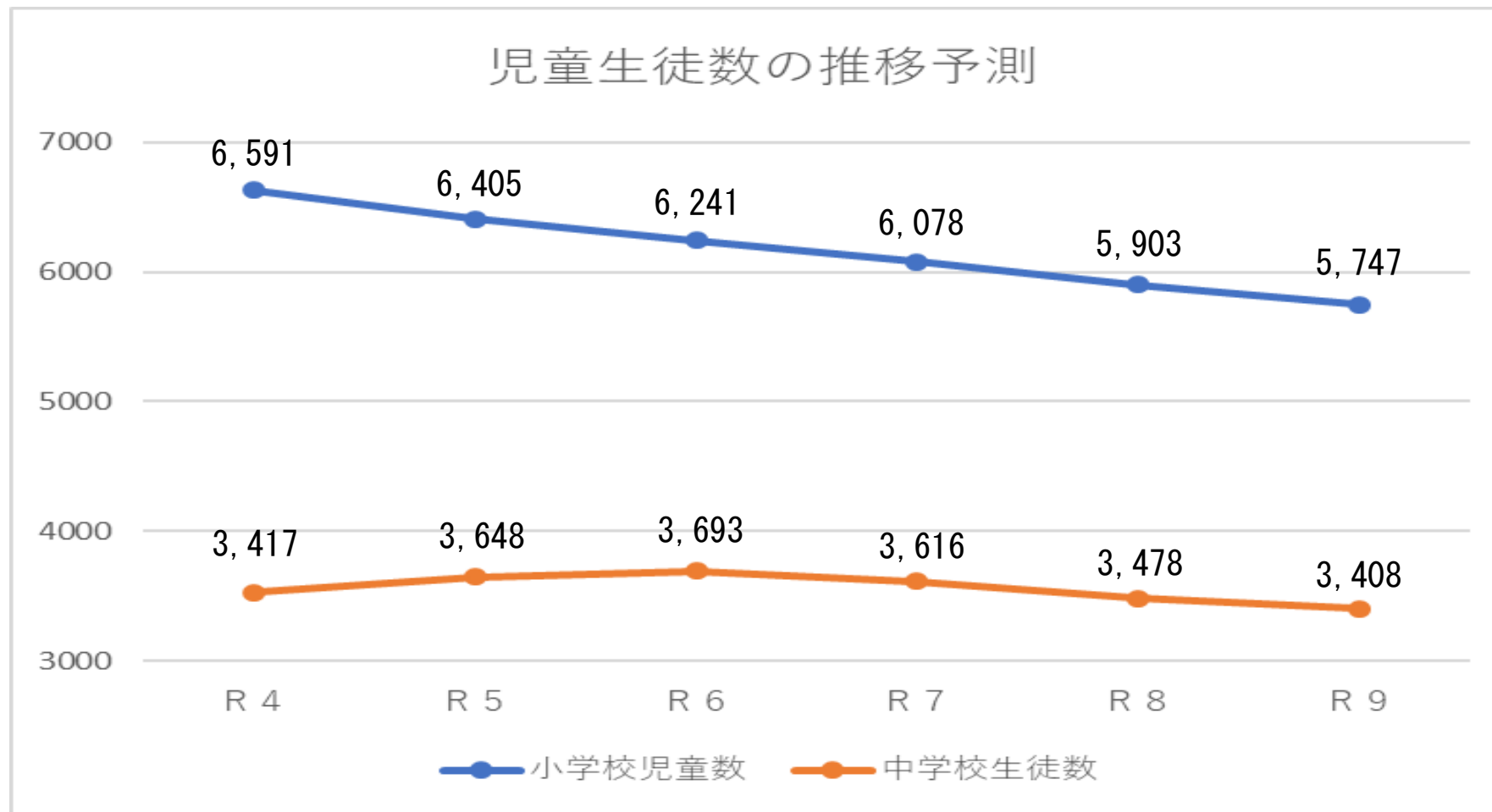
運動部所属生徒数2,419人

71%の加入率

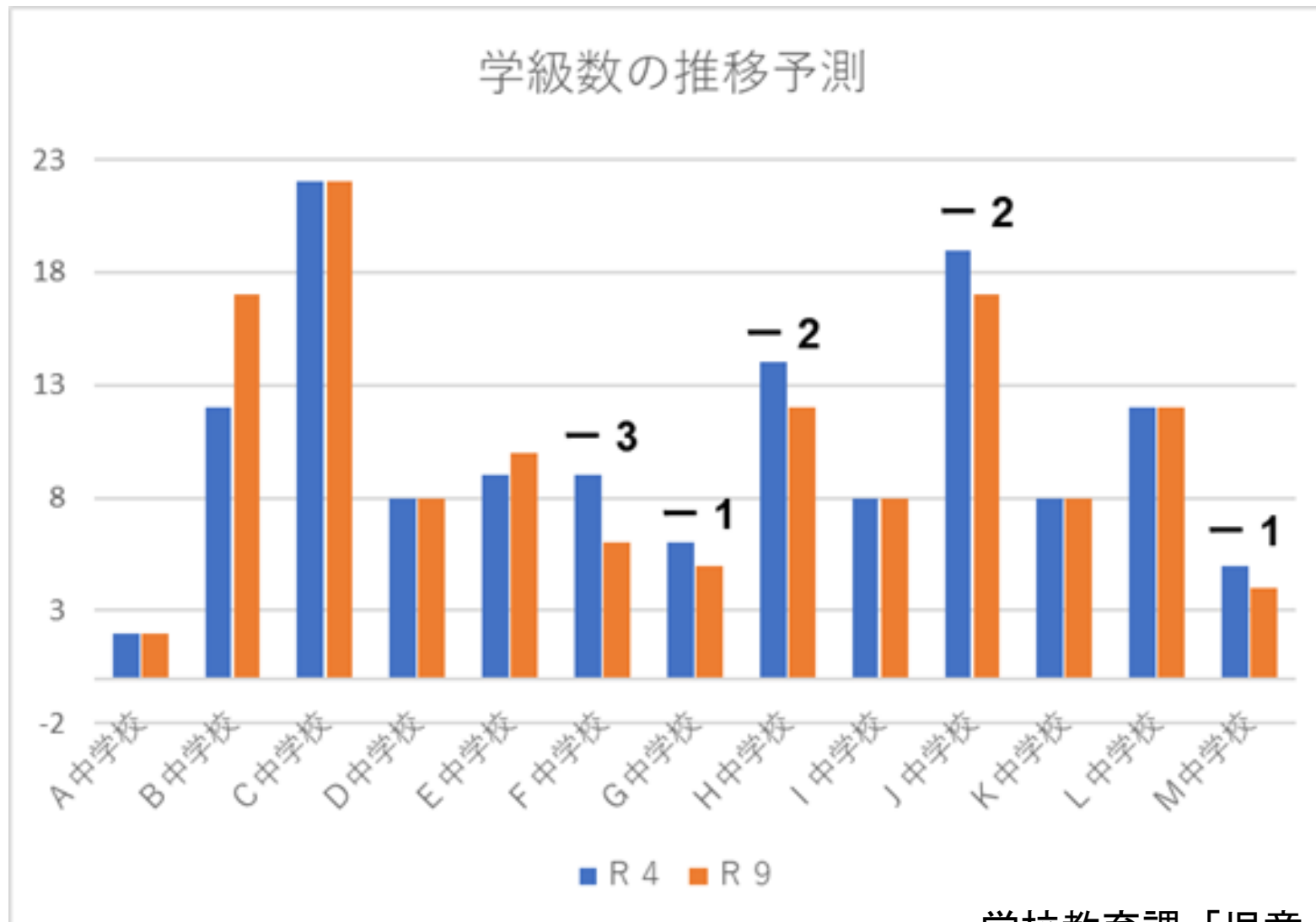
文化部所属生徒数713人

21%の加入率

(2) 児童生徒数の推移予測 (R 4 ~ R 9)



(3) 中学校における学級数の推移予測 (R 4 ~ R 9)



資料2

R4 周南市中体連・中文連所属生徒数調査より

(4) R4年度 周南市内中学校(13校)部活動数(種類)及び所属生徒数

岐陽中学校(生徒数669人)

運動部(男子)	9部活 (野球、サッカー含む)	陸上競技、軟式野球、バスケットボール、ソフトテニス 卓球、柔道、剣道、サッカー、ハンドボール
運動部(女子)	8部活	陸上競技、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス 卓球、柔道、剣道、ハンドボール
文化部(男女)	3部活	吹奏楽、美術、放送
臨時部	3部活	水泳、体操競技、バドミントン

鹿野中学校(生徒数42人)

運動部(男子)	2部活 (野球含む)	軟式野球、卓球
運動部(女子)	1部活	バレーボール
文化部(男女)	なし	
臨時部	なし	

周南市内中学校「軟式野球部」 10校／13校中

須々万中・桜田中合同チーム

学校名	太華中	岐陽中	菊川中	桜田中	須々万中	周陽中	秋月中	富田中	熊毛中	鹿野中
所属生徒数	3 1	3 1	1 8	2 1	1 2	1 9	1 6	3 5	2 6	5
学年別生徒数	1年 2年 3年 7 11 13	1年 2年 3年 9 8 14	1年 2年 3年 3 4 11	1年 2年 3年 4 7 10	1年 2年 3年 1 2 9	1年 2年 3年 4 8 7	1年 2年 3年 2 5 9	1年 2年 3年 9 10 16	1年 2年 3年 17 5 4	1年 2年 3年 0 0 5

秋月中・菊川中合同チーム

3 周南市立秋月中学校の実践研究について

(1) 実践研究概要

地域部活動推進事業

令和3年度概算要求額：221,097千円（スポーツ庁）
125,677千円（文化庁）



I. 休日の部活動の段階的な地域移行

実施拠点数：114カ所

47都道府県：2カ所（市・町村）20政令市：1カ所

令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むために、**全国各地の拠点校（地域）において実践研究を実施**し、研究成果を普及することで、休日の地域部活動の全国展開につなげる。

実践研究の実施

<主な実践課題>

- **地域人材を確保・マッチング**する仕組みの構築
- 生徒への適切な指導に必要な**地域人材の研修**の実施
- 平日と休日の**一貫指導のための連携・協力体制**の構築
- **費用負担**の在り方の整理
- 地域部活動の**運営団体**の確保 等

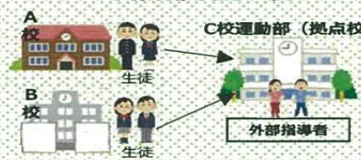
課題の検証
研究成果の発信

休日の地域部活動の
全国展開

II. 合理的で効率的な部活動の推進

- ❑ 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における**合同部活動**や**ICT活用**によるスポーツ・文化活動の機会の充実に向けた実践研究を実施する。
- ❑ 各地域で生徒にとって望ましい大会の推進に向け、**運動部活動の大会に関する調査研究**を実施する。

<合同部活動の例>



<ICT活用の例>



生徒にとって望ましい持続可能な部活動と
学校の働き方改革の両立を実現



(2) 実践体制

実践研究校：周南市立秋月中学校（R3～R4）

○ 生徒数：161名 教職員数：21名

○ 学級数：9学級（全学年2クラスずつ、特別支援学級3クラス）

	軟式野球部	男子 ソフトテニス部	女子 ソフトテニス部	女子バレー部	卓球部	吹奏楽部
部員数	16名	31名	16名	11名	30名	26名
顧問数	3名	2名	2名	2名	2名	1名
部活動指導員 （平日の指導に携わる）	1名 ↑	1名 ↑	配置なし	1名 ↑	1名 ↑	配置なし
地域部活動指導者 （休日の指導に携わる）	1名	1名	未配置	1名	1名	1名

(3) 実践研究に伴う成果



女子バレーボール部

R4.8.1 中国新聞掲載



軟式野球部



卓球部

(R3.10 実施アンケートより)

(生徒の感想)

- バレー初心者ですが、細かく色々な基礎などを教えてもらっている
- 経験者に指導してもらう事で、充実した部活動が出来る
- 自分ができていない所を丁寧に指摘してくれるのでとても満足している
- 色々な話をしてくれてわかりやすく、相談をしやすい
- 先生のおかげで上達していると実感している

(教員の感想)

- 生徒が専門的な指導を受けることができる
- 技術指導をして頂けてペア決め等の専門性が必要なことの相談ができる。心の負担が少し軽くなった
- 専門性をもった指導者で、学校の事情もよく理解してくださっている
- 顧問側に寄り添った指導をしていただいている
- 毎日の仕事の負担学校かなり減った。(特に土日)

(指導者の感想)

- 生徒が、技術やスポーツの特性について教えてもらいたいという気持ちが強いので、全体指導も個別指導もうまくいっている

(4) 現時点での課題

- 人材確保

- 活動場所（音楽室）

- 活動内容に対する生徒のニーズ

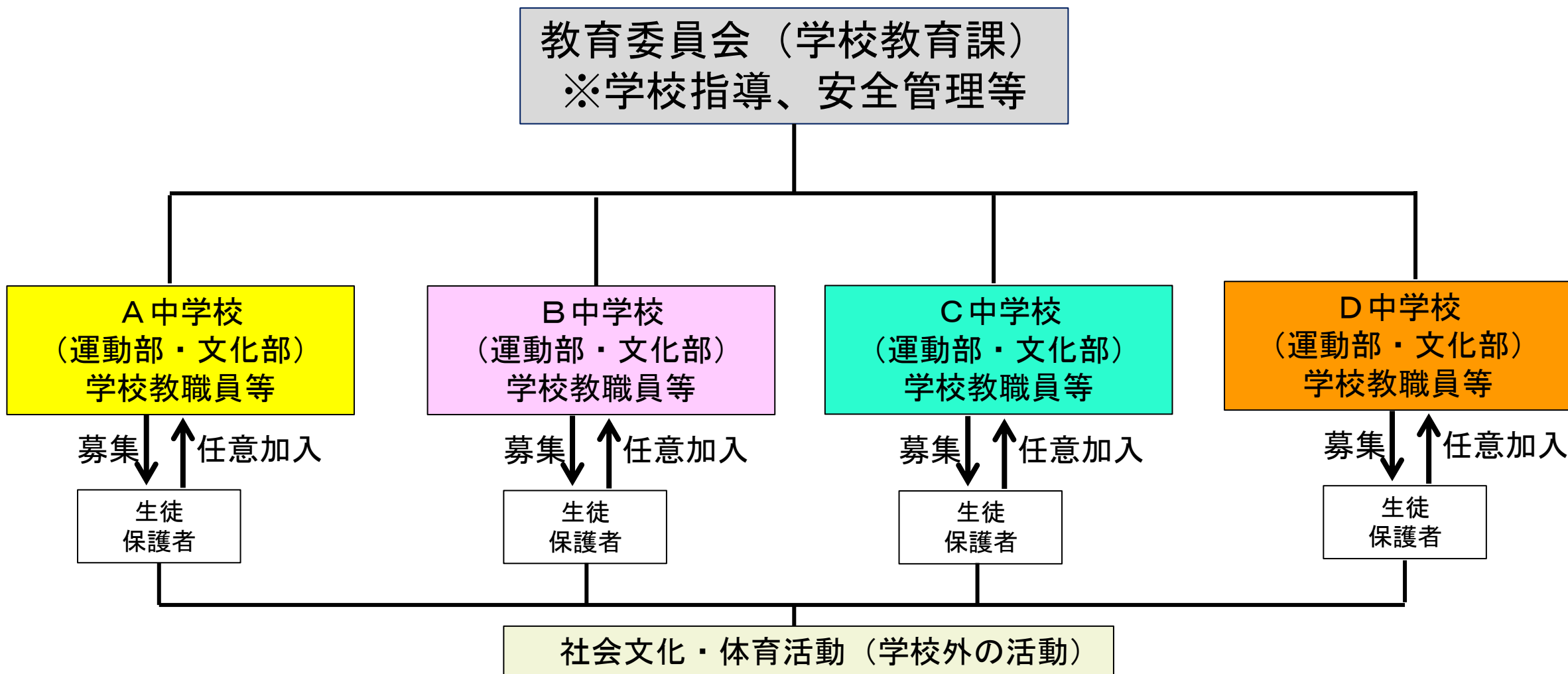
→学校部活動の地域移行後の持続可能な環境づくり

4 学校部活動の地域移行後の持続可能な環境づくりについて

(1) 学校部活動の地域移行における新たな環境としての『周南市文化・スポーツ活動』とは

- ・ 周南市内の中学生の「やってみたい」に応じた多様な活動
- ・ 多様な文化・スポーツ活動に、多様な地域で、多様な世代とともに参加できる活動

【現在】学校教育の一環としての活動



「学校単位から」

「地域単位へ」

A 中学校
(5 運動部・2 文化部)

A 中学校
(5 運動部・2 文化部)

地域単位：A 中学校区

B 中学校
(3 運動部)

B 中学校
(3 運動部)

地域単位：B 中学校区

C 中学校
(10 運動部・3 文化部)

C 中学校
(10 運動部・3 文化部)

地域単位：C 中学校区

「学校単位から」



周南市全域へ



周南市内
13中学校



- ・市内中学生の「やってみたい」に応えることができる環境づくり
- ・多様な地域で、多様な世代とともに、多様な文化・スポーツ活動に参加できる環境づくり

学校部活動の地域移行における新たな環境としての「周南市文化・スポーツ活動」のゴールイメージ
～市内すべての中学生の「やってみたい」に応えられる環境づくり～
～多様な地域で、多様な世代とともに、多様な文化・スポーツ活動への参加が可能な環境づくり～

文化芸術活動

「多様な文化芸術に親しむ場」
「コンクール等への出場をめざす場」



文化芸術活動関係事務局

スポーツ活動

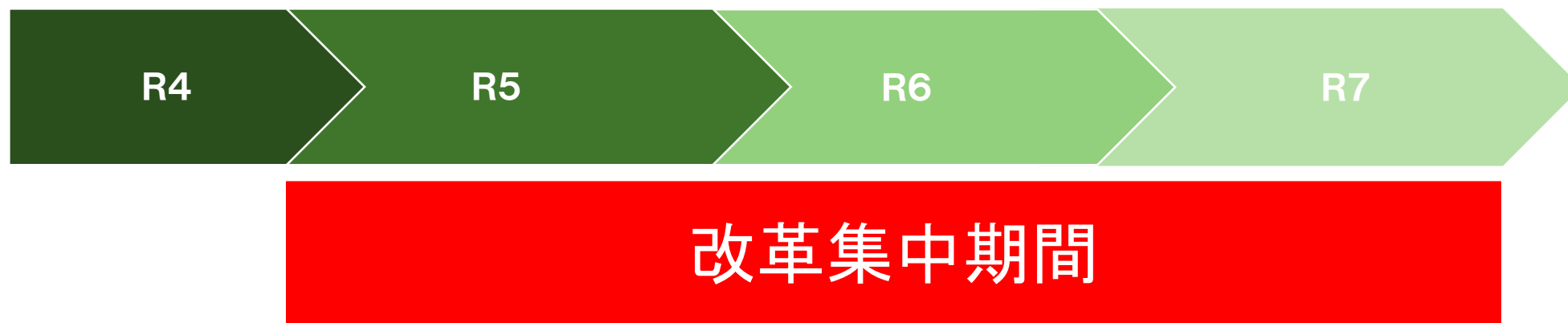
「生涯スポーツ、競技スポーツ等多様なスポーツに親しむ場」
「大会等への出場をめざす場」



スポーツ関係事務局

主管課：周南市文化スポーツ課
(移行期は学校教育課、文化スポーツ課で連携・協働)

(2) 平日と休日为一体とした地域移行



提言：「休日の部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする」

○平日の部活動の地域移行についても視野に入れ、休日の部活動の地域移行とともにできるところから取り組むことが考えられ～中略～更なる改革を推進すべきと考える。

5 ゴールイメージの具現化に向けたスケジュール（案）

資料 3

	R4	R5	R6	R7	R8
国	・改訂ガイドラインの策定 ・関連諸制度の通知 等 ・支援方策の検討 等	改革集中期間			平日を含めた移行を視野に入れ 更なる改革を推進
県	県推進計画策定 ・WG設置 ・国の改訂ガイドライン等を踏まえ策定作業開始 ・できる限り早期に策定	・推進計画に基づいた、必要な支援方策の実施や関連諸制度の整理 等 ・関係機関・団体等との連携による諸課題への対応 ・引き続き、必要な経費、人員等の検討 等			
	・必要な経費・人員等の検討 ・関連諸制度の整理 等 ・諸課題への対策の検討	・各市町の進捗状況を踏まえ、指導・助言 等 ・休日における地域移行の進捗状況を検証し、各市町との連携のもと、平日を含めた完全移行の目途の検討 等			
周南市	・秋月中での実践研究 ・周南市文化・スポーツ推進協議会 ・児童生徒、保護者、教職員等へのアンケート実施 ・関係団体等への周知、説明 ・必要な経費等の検討	～環境構築に向けた準備期間～ ・周南市文化・スポーツ推進協議会 ・市推進計画の策定、計画に基づき推進 ・関係課、関係団体等との連携・協働による環境構築に向けた仕組みづくり ・多様な活動の場の確保 ・児童生徒、保護者、教職員への周知 ・県や他市町等との連携、情報共有 等			平日・休日の部活動の 地域移行完了をめざす

6 本協議会における検討事項（案）

資料 4

- 活動の場(受け皿)の確保について
- 指導者について
- 中山間地域の活動機会の担保について
- 教職員の兼職兼業について
- 保護者や児童生徒、教職員への周知について
- 活動施設について
- 大会について
- 移行方法及び完了時期について
- 活動費用について
- 保険について